

令和3年度学校評価シート

学校名：和歌山北高等学校 北校舎

学校長名： 雑賀 敏浩

(別紙様式)

めざす学校像 育てたい生徒像		・主体的に学び自ら鍛える生徒を育てる ・地域社会の中核を担う若者を育てる		中期的な 目標	・校舎間の様々な問題を埋める対策を講じながら協働することにより、競技力を向上させ、本県スポーツを牽引する高等学校としての役割を果たす。 ・生徒の交流活動を中心に各校舎地の地域や小・中・特別支援学校等と密接に関わり、和歌山市北部唯一の県立高等学校として地域に根ざした学校をめざす。	成 度	A	十分に達成した。 (80%以上)
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1	自主的な学習姿勢と学習習慣の確立					B	概ね達成した。 (60%以上)
	2	望ましい勤労観と職業観を育成し進路指導の充実を図る		C	あまり十分でない。 (40%以上)			
	3	幅広い社会性を身につけた責任ある主権者の育成		D	不十分である。 (40%未満)			
	4	クラブ活動の更なる飛躍とボランティア活動の推進をめざす						
				学校評価の結果と改善方策の公表の方法	PTA役員会、学校運営協議会、学校説明会等で説明を行っている。 また、HPで公表を行う。			

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					令和4年2月15日 実施		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	学習意欲の向上と確かな学力の定着のため、生徒の意欲的な授業参加と家庭学習の習慣化を目指し、きめ細かい指導を心がけている。学習に対して関心が低い生徒や基礎学力の定着していない生徒も増えてきており、更なる工夫・改善が必要である。	・生徒は興味関心を持ち、自ら授業に積極的に取り組んでいるか。 ・確かな学力を定着させるため、授業等の創意工夫がなされているか。 ・生徒が積極的に読書に親しむ姿勢ができているか。	生徒の学習実態を把握し、授業等の工夫改善から積極的学習に取り組む姿勢を育てる。 国語・数学・英語の授業において、習熟度別展開をさらに充実させ、基礎学力の充実と発展的学力を伸長させる。 図書館の利用を促進し、読書に取り組む姿勢を育てる。	生徒の家庭学習時間数、前年度比10%増 成績不振者、前年度比10%減 図書館利用生徒数、前年度比10%増	生徒の家庭学習については、前年比と変わっていない状況である。 学校生活や授業中は落ち着いているが、特に支援を要する生徒が増しているため、放課後の補習等を行った結果、成績不振者が減少できている。図書館の取り組み等で利用者数が増加傾向にある。	B	・昨年度の学校改革案を基に教職員の意識改革や、校務分掌の組織改革を行い、より課題解決に向けた体制を強化したため、分掌や学年が連携をとれることで、現在の課題を打破できる体制となっている。 ・1人1台PCなどICTを活用した授業の進め方や授業形態の工夫をより一層行う。
2	就職では、公務員志望も含め、ほぼ全員が就業できている。一方進学では、ほとんどの者が推薦入試等での進学を目指している。合格に必要な学力を身につけようとする意識が低い。	・キャリア教育充実のために努力しているか。 ・生徒が自ら将来の設計をその実現のために努力しているか。	キャリアガイダンスの充実を図り、確かな勤労観、職業観を身につけさせる。 生徒のキャリア形成を支援し、個々に応じた適切な進路指導を実践する。	進路指導に関する現職教育(年2回以上) 大学入学共通テスト受験者前年度比10%増 進路指導アンケートの実施及び個別面談の実施(年3回以上)	進路指導部の主催で現職教育を2回実施した。また、アンケートについても3回実施。 4年制大学への進学者は増加した。しかし、大学入学共通テスト受験者は、減少傾向である。就職の内定率は100パーセントであった。	B	・進路指導において、大学入学共通テスト受験者を増加できるように努力をしているが、今後は1年生の早い段階で教科と連携しながら指導する必要がある。 ・就職の内定率は100%であるが、現在の情勢を把握しながら指導する必要がある。
3	生活指導面において身だしなみや遅刻等の指導を徹底しており、落ち着いた学校生活を送っている。携帯電話等によるネットトラブルが多く起こっており、校内での使用禁止の徹底および家庭等での使用時のマナーや正しい人権感覚を身につけさせる必要がある。	・基本的な生活習慣が確立し高校生としてふさわしい行動ができているか。 ・規範意識が身につき、基本的人権を尊重する生徒の育成を図っているか。	高校生としての身だしなみやマナーを身につけられるよう指導していく。 通学指導から交通法規を遵守させる。また、マナー教育を推進し、生活の中で規範意識を育てる。 教育相談の活用と人権教育の充実を図り、いじめ・暴力の根絶に努める。	特別指導件数について前年度比10%減 予鈴登校指導と遅刻者0 雨天時の自転車傘差し運転0 モラルやマナーに関する講習会の実施(年1回以上) いじめに関するアンケートとLHRの実施(年3回以上)	特別指導については、件数は若干減少しているが、SNS関係の指導については増加している状況である。 自転車マナー指導については、徹底をしているが、依然近隣住民より苦情が受けることがある。 いじめに関するアンケートは学期に1回実施し、担任・学年・教育相談・いじめ対策委員会連携を取れている。	B	・身だしなみ指導については引き続き指導の徹底を図る。生徒の約8割が自転車登校のため学校周辺の道路状況なども考慮しながら、PTAや関係機関と協力しながら街頭指導に力を入れる。 ・社会のルールやマナーをしっかりと意識させることにより自己確立の一助になるような種々の取り組みを行っている。
4	両校舎共通で体育部・文化部とも活発に活動している。 一方で部活離れの傾向をどう解消していくかが課題となっている。 地域等へのボランティア参加は年々増えている。	・文武両道を目指し、心身ともに健全な人格の育成が図られているか。 ・地域との連携やボランティア活動を積極的にすすめているか。	部活離れを解消し、西校舎(スポーツ健康科学科・普通科)とともに体育部の競技力向上と文化部の活性化に取り組む。 地域でのボランティア活動への参加を積極的に推進する。	部活動加入率、前年度比増 全国大会出場者数100名以上(両校舎合計) ボランティア活動参加者数前年度比10%増	1年生の部活動加入率は増加した。コロナ禍ではあるが多くのボランティアは復活した。全国大会(高校総体、選抜)が開催され大いに活躍した。全国大会出場者は84名であった。	A	・学校運営協議会と協力し地域でのボランティア活動への参加を積極的に推進する。 ・昨年10月に大規模改修工事が終了した体育館を有効利用すると共に両校舎のスポーツ施設を能率よく使用しスポーツ強豪校として進化する。

学校関係者からの意見・要望・評価等

学校運営協議会からの意見

・自主的な学習姿勢と学習習慣の確立について

コロナ禍で困難な状況のなか、いろいろと工夫して授業を展開していると思う。生徒1人1台学習用パソコンの活用方法などをさらに検討して授業改善につなげてほしい。

・進路指導の充実について

進学、就職ともにコロナ禍のため例年と違った指導であったと思うが、3年生の進路ともそれぞれ結果が良く、頑張っていると感じた。進路に関する情報の提供や将来の進路、生き方について考える機会が多く用意されているので、引き続き進路指導の充実を図れるよう期待している。

・幅広い社会性を身につけた責任ある主権者の育成について

ホームルーム活動や学校行事がコロナ禍により中止や変更となったが、生徒会が中心となり新しい生活様式で実施内容を検討し自主的に取組めているようである。加えて、生徒も学校づくりに参加しているという実感を持たせることができるよう期待している。

・クラブ活動の飛躍と充実について

今年度は、コロナ禍のため多くの大会が中止となったが、参加できた試合においては良く健闘していると思う。難しい情勢であるが「スポーツの北高」として、今後も、部活動に積極的に取り組む生徒を増やせるよう期待している。

令和3年度 学校評価シート

学校名： 和歌山北高等学校 西校舎 学校長名： 雑賀 敏浩

めざす学校像 育てたい生徒像	・地域からより信頼される学校づくり ・主体的に学び自ら鍛える生徒を育てる ・地域社会の中核を担う人材を育成する
-------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 自主的な学習姿勢と学習習慣の確立
	2 望ましい勤労観と職業観を育成し進路指導の充実を図る
	3 幅広い社会性を身につけた責任ある主権者の育成
	4 校訓の精神に則りクラブ活動の更なる飛躍と充実をめざす

中期的な目標	・校舎間の様々な格差を埋める対策を講じながら協働することにより、競技力を向上させ、本県スポーツを牽引する高等学校としての役割を果たす。 ・生徒の交流活動を中心に各校舎地の地域や小・中・特別支援学校等と密接に関わり、和歌山市北部唯一の県立高等学校として地域に根ざした学校をめざす。	達成度	A	十分に達成した。 (80%以上)
			B	概ね達成した。 (60%以上)
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	PTA役員会、学校運営協議会、学校説明会等で説明を行っている。 また、HPで公表を行う。		C	あまり十分でない。(40%以上)
			D	不十分である。 (40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					
重点目標					年度評価(3月9日現在)
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況 達成度 次年度への課題と改善方策
重点目標 1	きめの細かい授業を心がけているが意欲・関心が低い生徒や特別な支援が必要な生徒も存在するのが現状である。生徒一人一人の主体的な学びを最重点とし、わかる授業の定着が課題である。確かな学力を身につけさせるため、教材研究や授業方法の工夫改善を模索している段階である。	・授業規律は確立されているか。 ・生徒は興味関心を持ち、自ら意欲的に授業に取り組んでいるか。 ・「わかる授業づくり」に努め、授業に工夫を凝らしているか。	・全教職員が共通理解のもと、基礎学力の定着を図る。 ・校内外の研究授業・研究協議に積極的に参加し、授業改善に努める。 ・習熟度別クラス編成や少人数展開授業での細やかな指導により基礎学力をつけるよう努め、通級指導教室では個に応じた指導を行う。	・始業開始2分前メロディを流す等の工夫をし、授業前入室着席の徹底 ・生徒による授業評価の実施・分析により、わかる授業の指数の増加(前年度比)。 ・成績不振者、前年度比減。 ・さくら支援学校の協力を受け通級指導教室を実施。	○始業開始2分前メロディと巡視を引き続き行ったことで、授業開始前に着席できている。 ○ユニバーサルデザインを意識した授業により、アンケートで「わかりやすい授業が行われている」が「当てはまる」「やや当てはまる」が11.8%増加した。 ○通級指導教室では、4名が自立活動の学習により、ソーシャルスキル等を身につけている。
2	コロナ禍で様々な制限があるなか進路LHR、進路講演会等を通して進路意識の更なる向上に努めている。また、基礎基本を徹底して確かな学力や進路意識をつけ、自己実現の支援方法を模索している。	・自己実現のため生徒の進路意識や勤労観を高め、就職内定率や進学率向上のための具体的な取組が展開されたか。	・応募前職場体験を推進する。 ・個人面談やキャリアカウンセリングを充実させる。 ・生徒の個々の進路希望を把握し、その実現に向けた学習を支援する体制を整える。	・就職希望者全員の応募前職場体験。 ・1年以内の離職者0 ・進路指導に関する現職教育の実施(年2回以上)。	○コロナ禍でインターンシップは実施できなかったが、職場見学をほぼ全員実施した。 ○就職について、教員や就職指導員のサポートもあり、離職率は低かった。 ○学年ごとに進路指導のガイダンスを行った。
3	自らを律する力を育み、基本的生活習慣の確立をめざし、教職員が一致して、社会のマナーやルールを基本から指導する。集団の中で自己肯定感を高め、同時に他者への配慮ができるよう生徒の人権意識を高める必要がある。	・規律ある学校生活を送り、思いやりをもった態度が育成されているか。 ・生徒が、社会のマナーやルールを主体的にとらえ、自ら行動できているか。	・生徒に寄り添った指導を心がけ、規律ある有意義な学校生活の達成をめざす。 ・朝のスタートに重点を置いた遅刻防止・自転車指導を行う。 ・生徒の様々な体験、生徒の自主的な活動を支援するとともに、思いやりの心、道徳心の育成に努める。	・安全安心な朝のスタート地域一般道における自転車放置件数0件。 ・生徒会活動やボランティア活動の参加率向上。	○身だしなみ指導は、定着してきている。(再登校指導対象者0名) ○生徒会活動やボランティア活動(地域清掃)の参加率が向上した。 ○コロナ禍であったが、感染拡大防止の対策をし、人権教育及び和歌山さくら支援学校とのできる限りの交流活動を行った。
4	スポーツ健康科学科を中心に運動部活動が活発である。コロナ禍により多くの大会が中止となったが、各種代替大会で大いに活躍した。今後、普通科の生徒のクラブ加入率を上げるのが課題である。	・知徳体のバランスをめざし、心身ともに健全な人格の育成が図られているか。 ・クラブ活動が更に活性化され、有意義な高校生活であるか。	・知徳体のバランスをめざし、生徒一人一人が切磋琢磨を心がけること。クラブ加入率の向上を図る。スポーツ健康科学科は、さらなる競技力向上をめざし、全生徒が学校の活性化に努める。	・普通科1年生全員の実質的な部活動参加をめざす。 ・全国大会(インターハイ等)の出場者を100名以上輩出する。(両校舎合計)	○普通科1年生の加入率が、本校舎においては、53.3%で、昨年度より8.1%増加した。 ○全国大会出場者は84名であった。

学校関係者評価
令和4年2月15日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
学校運営協議会からの意見 ・自主的な学習姿勢と学習習慣の確立について コロナ禍で困難な状況のなか、いろいろと工夫して授業を展開していると思う。今後もさらに授業改善を続けて欲しい。 ・進路指導の充実について 進学、就職ともに結果が良く、頑張っていると感じた。今年度からはじまった就職試験での複数応募においても大きな混乱無く対応できていた。 ・幅広い社会性を身につけた責任ある主権者の育成について 生徒会が中心となり、校則の検討に生徒会が積極的に取り組み、生徒が学校づくりに参加しているという実感を持つことにつながっていると感じた。 ・クラブ活動の飛躍と充実について 北高の魅力をもっと伝えスポーツの和北だけでなく、知・徳・体の北高がより候補になる学校作りを保護者や地域も含め、今の生徒たちが名刺になるような明るい学校になるよう願っています。 ・和歌山北高のこれからについて 校舎統合を見据え今までと違う新しい取り組みにもチャレンジしていった欲しい。